未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ ①

写真や図表で見る
全農のいま

畜産生産部

主な事業内容
- 畜産・酪農生産に必要な資材の供給
- 研究開発・検査・講習
- 生産基盤の支援・補完

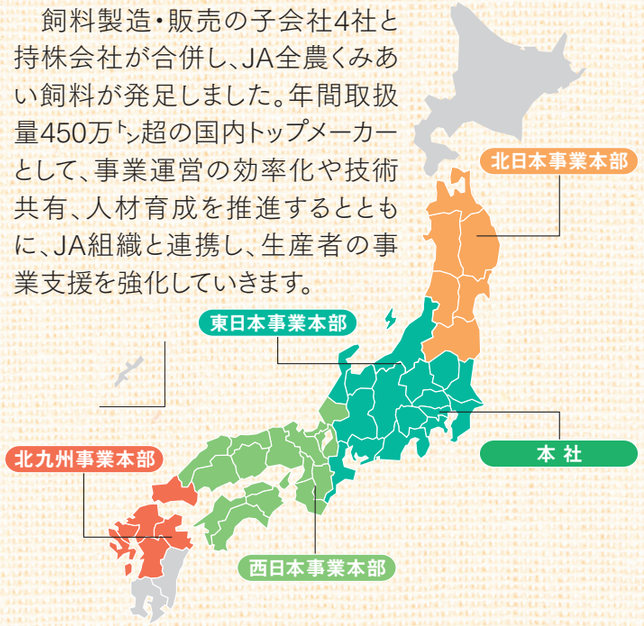
# JA全農の飼料事業再編と挑戦

畜産生産部は、国内外から飼料原料を調達し、配合飼料を製造・供給する一貫体制で畜産物の安定生産を支えています。生産基盤の維持・拡大に向け、生産者への技術支援や研究開発も推進しています。今回は飼料事業の機能強化、配合飼料の研究開発、事業再編の取り組みについてご紹介します。

FILE 1

## 飼料事業の機能強化に向けて

飼料製造・販売の子会社4社と持株会社が合併し、JA全農くみあい飼料が発足しました。年間取扱量450万ㇳン超の国内トップメーカーとして、事業運営の効率化や技術共有、人材育成を推進するとともに、JA組織と連携し、生産者の事業支援を強化していきます。




FILE 2

## 粗飼料を混合した配合飼料の研究開発について

小麦ストローを裁断・キューブ状に加工した粗飼料を配合飼料に混合する技術を開発しました。（特許第6839392号 小麦わら成形飼料およびこれを用いた家畜の飼育方法）

嗜好（しこう）性や反すう促進効果が高く、生産性を挙げながら、飼料給与作業の大幅な省力化に貢献します。

今後も生産者と連携して商品開発を進めていきます。

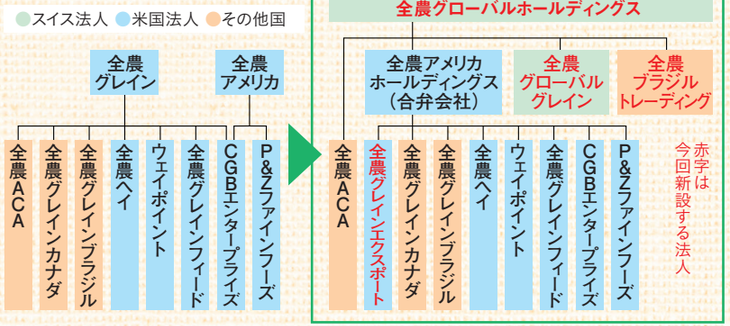
割砕した小麦ストローキューブ

FILE 3

## 海外関連事業の再編について

JA全農は2025年4月にスイスで全農グローバルホールディングスを設立し、5月に米国の全農グレインと全農アメリカを合併。両社の子会社などとともに全農グローバルホールディングスを持ち株会社として、その傘下に再編しました。海外事業のリスク管理やガバナンス（組織統治）を強化し、穀物・肥料・日本産農畜産物輸出事業の相乗効果を追求します。再編で事業の効率成長と安定経営を図り、安定供給と輸出強化に貢献してまいります。

再編前後の組織図




牛や豚、鶏といった家畜の飼料には、トウモロコシをはじめとした穀物などを混合・加工した配合飼料が使われます。畜産生産事業では、海外の穀物産地や国内原料メーカーから飼料原料を調達し、グループ会社の飼料工場で製造した配合飼料を経済連・JAを通じて生産者（畜産農家）に供給しています。原料調達から生産者への供給まで一貫した事業展開で、肉や牛乳、卵などの畜産物の生産を支えています。

畜産物を消費者に安定してお届けするため、生産者の戸数や家畜の頭数など「生産基盤」をいかに維持するかも重要な役割です。技術面での改善策を生産者に提案することで畜産経営を支援し、生産基盤の維持・拡大を図るため、三つの畜産関連の研究所で研究・開発に取り組んでいます。

JA全農くみあい飼料
北日本事業本部
営業部 養鶏課
小宮山 大介さん
2017年入会。養鶏用配合飼料の推進を担当。

全農 ZEN-NOH

JA全農事業ビジョン2030はこちら

次回は畜産生産部
「畜産研究の最前線」7月18日（金）掲載予定